



青年期の発達障がいのある方への支援
高大接続における移行支援
ギフテッド教育
の視点から

日時 2019年1月18日 (金)
13:30 ~ 17:00

会場 大阪大学中之島センター 10F
佐治敬三メモリアルホール

定員 150名 (先着順) **参加費** 無料

※お子様連れの方向けに、モニター視聴室を用意しています

「ギフテッド」とは、いわゆる天才児のことです。認知機能の高い発達障がいの人たちの中には、ギフテッドの特徴を持つ人が多くいることが知られています。アインシュタインやビルゲイツも、発達の凸凹があったのではないかと伝えられています。しかし、日本の特別支援教育は、苦手さを補う支援に重点が置かれており、才能をさらに伸ばすことにはあまり目を向けられてきませんでした。

そんな中であって、大学は、個人が自分の興味関心に沿って専門的に学ぶことができ、ギフテッド教育を実践しやすい場と言えます。一方で、社会的な苦手さのある人にとって、大学は、高校までと異なり自主性を求められる自由な環境で、大きな混乱をもたらす場でもあります。彼らが高い能力を発揮できるように、高校から大学へのスムーズな移行、学びを支える体制の構築が求められています。

基調講演 杉山 登志郎 先生

児童精神科医。浜松医科大学児童青年期精神医学講座客員教授、福井大学子どものこころの発達研究センター客員教授。日本小児精神神経学会常務理事。おもな著書に「子育てで一番大切なこと 愛着障害と発達障害」講談社現代新書、「子ども虐待という第四の発達障害」学研プラスなど多数。共著に「ギフテッド 天才の育て方」学研プラスなどがある。



プログラム

13:30 開会あいさつ

13:40 第1部：基調講演

杉山 登志郎 『発達障がいとギフテッド』

14:50 第2部：シンポジウム

加藤 永歳 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官
移行支援は国の施策としても、重要なものとして位置づけられています。しかし、高校卒業後移行の支援体制の構築は立ち遅れています。福祉の視点から、移行支援についての国の方針や課題について考えます。

杉山 清寛 大阪大学 全学教育推進機構 全学共通教育部門 教授

大阪大学では、優秀な高校生が大学で学び、最先端の科学技術に触れたり、研究に参加したりするSEEDSプログラムを実施しています。発達障がいに特化したプログラムではありませんが、ギフテッド教育の一端を担う可能性を秘めています。

諏訪 絵里子 大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター 相談支援部門 特任講師

昨年度はじめて実施したASDのある新入学生のための大学準備プログラムを紹介します。授業でのグループディスカッションの参加の仕方から休み時間の過ごし方まで、ASDの学生が戸惑いやすい場面を取り上げ、大学生活に触れる体験型のプログラムです。

16:15 第3部：フリーディスカッション

講師陣によるディスカッションおよびフロアからの質疑応答

16:50 閉会あいさつ

申込方法 2019年1月10日〆切り ※定員150名（先着順）参加費無料

QRコードまたは以下のWEBページにある申込フォームからお申込みください

<http://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/home/sosiki/sodansien/acs/giftedform/>

受講に際し特別な配慮が必要な場合は、申込フォームにご記入の上、2018年12月25日までにお申込みください
WEBからの申込が困難な場合は、E-mailかお電話にてお申し込みください



会場アクセス

大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール

京阪電車 中之島駅6番出口より徒歩5分、渡辺橋駅1番出口より徒歩5分

阪神本線 福島駅より徒歩9分

JR東西線 新福島駅より徒歩9分

JR環状線 福島駅より徒歩12分

大阪メトロ四つ橋線 肥後橋駅4番出口より徒歩10分

大阪メトロ御堂筋線 淀屋橋駅7番または4番出口より徒歩16分



主催：大阪大学キャンパスライフ健康支援センター 後援(予定)：文部科学省、大阪府、大阪府教育委員会、
京都大学高等教育アクセシビリティプラットフォーム

事務局：大阪大学キャンパスライフ健康支援センター 相談支援部門 アクセシビリティ支援室

〒560-0043 豊中市待兼山1-10学生交流棟2階 06-6850-6107 info@hacc.osaka-u.ac.jp